

黒部市下水道バイオマスエネルギー 利活用施設整備運営事業について



事業概要1 (事業に至る背景と経緯)

1. 広域圏し尿処理施設の更新工事

市で農集排汚泥、浄化槽汚泥を処理する必要性が生じた。

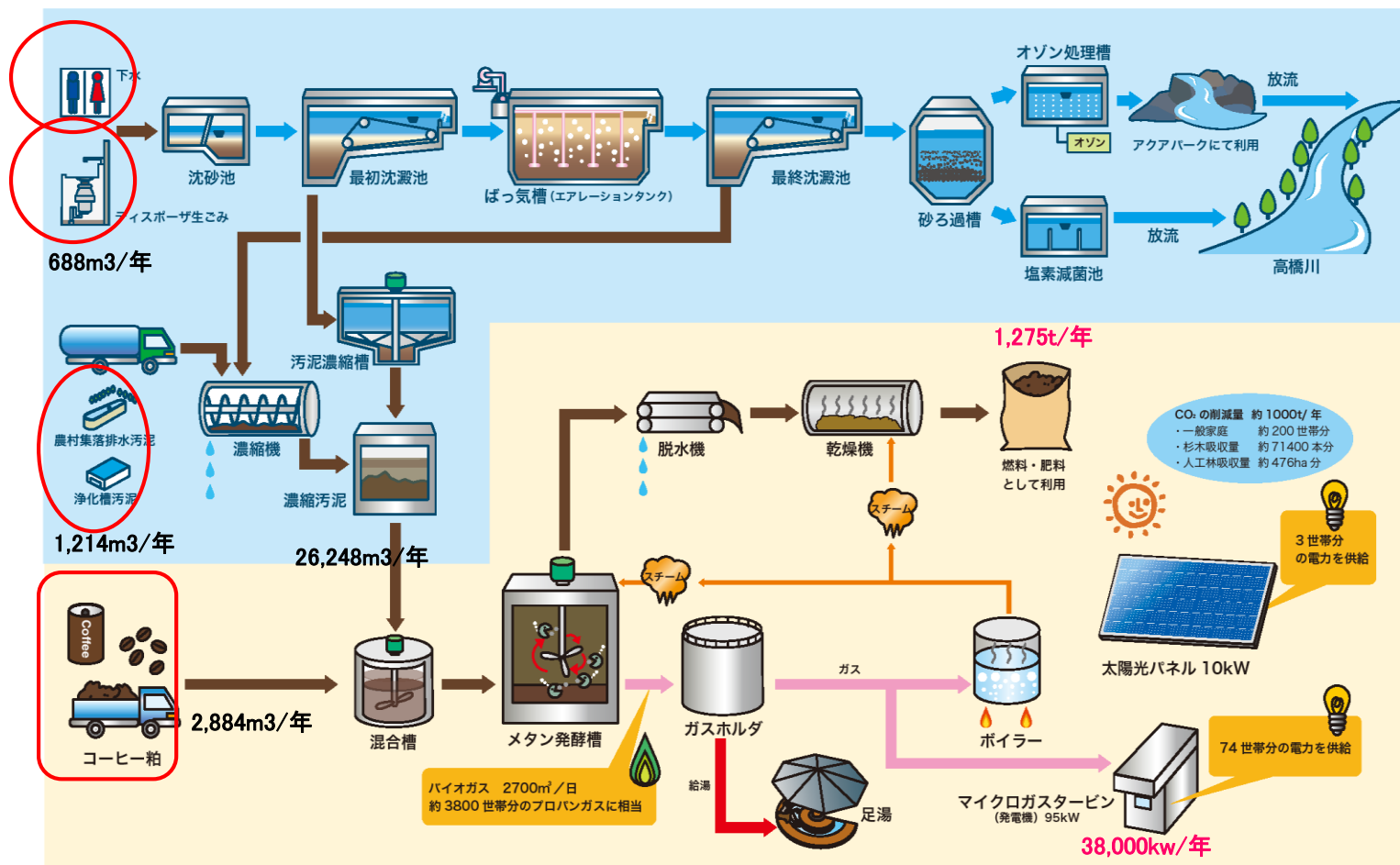
2. 下水汚泥処理費用の増大

業者委託により焼却処理や埋立処分していたが、休止・閉鎖・値上げ等の恒常的なリスクがあった。



地球温暖化対策問題 資源・エネルギー需給の逼迫
都市の持続的発展 → 循環型社会に適応した廃棄物処理

事業概要2 (処理フロー)



事業概要3 (事業スキーム)

1.事業方式

BTO方式：

PFI事業者がPFI法に基づき、施設を整備した後、施設所有権を市へ移転した上で事業期間にわたり維持管理運営を実施する方式。

2.事業期間

(1) 設計・建設期間

平成21年4月1日～平成23年4月30日

(2) 維持管理・運営期間

平成23年5月1日～平成38年4月30日 (15年間)

3.事業費

(1) 建設費 約16億円

(2) 維持管理運営費 約20億円

発注に至るまでの経緯

1.発注に至るまでに公的機関や民間をどのように活用したか。

専門知識のある民間業者に以下の業務を委託した。

H15 基本構想策定

(学識経験者、市民等から構成される基本構想策定委員会)

H18 実施計画策定

H19 PFI可能性調査業務実施

H19～20 PFIアドバイザー業務実施

2.検討経費をどのように確保したか

上記業務は国庫補助金を活用し、実施

関係者の合意形成の進め方

1.市の内部や議会への説明手順や内容

- (1)市の内部 : H18年度～H19年度にかけて、PFI手法による事業実施について説明し、了承を得た。
- (2)市議会 : H19年度～H20年度にかけて、PFI手法による事業実施について説明し、H20.6月議会において債務負担行為の議決を得た。
H21年3月議会において、PFI事業本契約の議決を得た。

2.地元の活用

PFI事業では地元企業の参入することが困難と予測されたため、優先交渉権者選定基準の審査項目に「地域の活性化」をいれ、地元の企業や人材が活用されるやすいように考慮した。

事業者の選定方法について

1.入札方式

本事業では、設計・建設段階から維持管理・運営の各業務を通じ、事業者に効率的・効果的サービスの提供を求めるものであり、また、提案の自由度及び競争性の確保に配慮することから、公募プロポーザル方式を採用した。

2.選定の進め方

(1)PFI事業者選定委員会を設置

学識経験者2名、富山県庁1名、黒部市役所2名

(2)優先交渉権者選定基準を作成

選定委員会において、審査項目・配点を決定

モニタリングについて

1.モニタリング体制

設計・建設のモニタリングは、業者委託により実施。

維持管理・運営モニタリングは、市で実施。

(別途、融資金融機関によるモニタリング有り)

2.課題

市によるモニタリングは、人事異動により新しい担当者や検査員となった場合に対応が困難となることが推測される。このため専門知識のある業者委託によるモニタリング体制が望まれる。

ご清聴ありがとうございました。

新型車両“W7系”



平成27年3月14日 北陸新幹線開業



黒部宇奈月温泉駅